

コロナ渦における輸血検査技術の標準化へ向けた取り組み

◎酒井美恵¹⁾、大垣 秀友²⁾、高橋 綾子³⁾、長谷川 卓也⁴⁾、石野 久美子⁵⁾、小林 竜一⁶⁾
医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院¹⁾、医療法人社団愛友会 千葉愛友会記念病院²⁾、医療法人社団 愛友会 三郷中央総合病院³⁾、医療法人社団協友会 八潮中央総合病院⁴⁾、医療法人社団協友会 東川口病院⁵⁾、上尾中央医科グループ協議会⁶⁾

【はじめに】上尾中央医科グループ（AMG）の検査部では、2009年より廃棄血の削減、輸血検査手技の標準化、適正で安全な輸血療法への貢献を目的に、臨床検査技師の代表者で構成される適正輸血委員会を発足させた。委員会活動の一つとして、座学研修会と実技研修会を毎年行ってきたが、今回新型コロナウイルス感染拡大の影響から、実技研修会の代わりにWeb会議システムでの輸血研修会の企画検討を行い開催した。その活動内容と今後の課題について報告する。

【対象・方法】対象はグループ病院・施設の中で輸血検査実務3年以上とし、4班×4人程度の最大16人（16施設）参加とした。グループワーク形式で実施するため、操作方法や事前問題（血液型、不規則抗体検査に関する症例を各2例）を作成し各施設へ配布、研修会当日に解答についてディスカッションが出来るように準備をした。グループワークには委員会委員がサポートにつき、参加者の中で発表者と書記、ファシリテーターの役割を決め円滑にグループワークが進むように行った。問題解答・解説についても、各班の発表者が結果を報告し、その問題に解説する一問一答形式で実施した。

【実施結果】研修終了後、参加者にアンケートを実施し、理解度、満足度を調査した。今回の研修会について、「有意義であった」との回答は100%、「研修内容がほとんど理解できた」と回答は68%であった。利点として、移動時間の負担軽減や解説資料の見やすさなどの意見が挙げられたが、操作方法や回線状況、画面越しでのコミュニケーションの取りづらさなどの意見も挙げられた。

【考察】今回初の試みとしてWeb会議システムを使用した研修会を企画し、運営側の委員も慣れない作業や準備の中、無事開催することができた。研修時間は2時間ほどであったが、ディスカッション時の時間調整や取りまとめ方に対して、従来の集合型研修会とは違う新たな課題も見えてきた。研修会の実施は検査手技の標準化の他、AMG施設間での情報共有できる機会にも繋がるため、今後も活動を継続し適正で安全な輸血療法の実施に向けて努めていきたい。

連絡先：048-773-1111（内線：2416）